

令和6年8月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

マダイ中間育成終了、放流へ

6月中旬から中間育成していたマダイの稚魚の計数作業を7月18日に熱海市網代で、22日に西伊豆町田子で行いました。

今年は病気の発生が見られなかったことから生残率が例年に比べて高く、網代で95%、田子で92%でした。特に網代では、昨年の生残率（68%）を大きく上回る結果となりました。

マダイは網代で尾叉長66.9mm、田子で67.6mmと、放流に適した大きさ（6cm）以上にまで成長したため、伊豆各地先の漁港内等の適地に放流されました。放流作業には地域の子供たちも参加し、地域の活性化につながる活動になっていると感じます。

解説：中間育成：放流用の稚魚を放流に適した大きさになるまで生簀で飼育する工程。波の穏やかな漁港内で行われる。



↑ 計数作業
(7月22日 田子港内)



↑ 漁業関係者による放流
(7月22日 仁科地区)



↑ 親子で放流に参加する様子
(7月26日 河津市下河津漁港)

菖蒲沢港内にアントクメを移殖

深刻化する磯焼けを踏まえ、当场では比較的高水温に強いと考えられるアントクメの移殖技術の開発を行っています。これは藻場復活の起点となる核藻場の形成を目指したもので河津町菖蒲沢の漁港内で実施しています。

7月25日にアントクメ付きのブロック計26個を潜水作業によって漁港内海底に設置しました。うち22個は事前に設置した2つの食害防除ネット（100×100×80cm）の中に入れ、残り4個は防除ネットの外側に設置しました。今後、ネット内外のアントクメの生長、成熟を観察し比較することで、食害防除ネットの効果を確認していきます。



↑ 設置したアントクメ



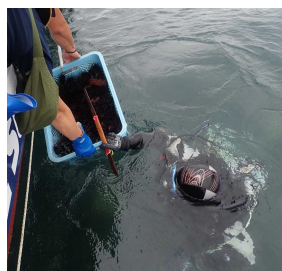
↑ 食害防除ネット

ブダイ・ウニの駆除活動

伊豆半島各地では、海藻が減少する「磯焼け」が問題になっており、その要因の一つが、海藻を食べてしまう「ブダイ」や「ムラサキウニ」の増加であることから、下田市白浜では漁業者が刺網という漁法でブダイの駆除を、西伊豆町仁科ではダイバーが潜水によりムラサキウニの駆除を実施しています。駆除活動は労力や経費が掛かるため、当场では効率的な駆除方法や駆除生物の販路開拓に取り組むなど、活動の支援を行っています。



↑ ブダイ駆除



↑ ムラサキウニ駆除

解説：「ブダイ」は海藻を好んで食べる魚。ブダイもムラサキウニも伊豆半島各地で普通に見られますが、近年、生息数が増加傾向にあると考えられています。

8月の予定 ●キンメダイ親魚採捕調査（南伊豆・稲取）●キンメダイ種苗生産研究推進会議（福岡市1～2日）●県民の日イベント（9日）●相模湾漁況研究協議会（19日）

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu

当場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。